
東方紅狼録

鳳燕

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

東方紅狼録

【Nコード】

N0801Z

【作者名】

鳳燕

【あらすじ】

紅狼 葉月は理由が分からず死んでしまった――
そこで転生することになり――

プロローグ（前書き）

プロローグですね

これから私、鳳燕と小説を宜しくお願いします。

プロローグ

初めまして普通？の高校生男児の紅狼^{こうろう} 葉月^{はつき}と言つもの。

……突然じゃが僕は非常に困つた状況に陥っているのじゃ。
それは何か？それはじゃのう……

「此処は何処じゃー！」

一面真っ白の壁も天井も何にも仕切りのない部屋？というべきじゃ
ろうか……そんな場所にいるんじゃないこれが……

「ぬぬう、何故このような奇怪な場所にいるのじゃ、僕は……」

考えても可笑しいのじゃよ、僕は家で寝ていたしのうこんな場所父
上と来たこともない、しかも何故か記憶が抜けた様に変な気分じゃ
し……

「考えても仕方ないのう、やることがないし寝るとするかのを」

うむ、眠くなってきたしこれが最善の策じゃしのう。

「ふああ、お休み……」『つて寝ないでくれない？』？」

誰じゃ、人の眠りを妨げる愚か者はいいい迷惑じゃ。

『愚か者つてひどいなあー、僕は君に話があるから話かけたのに』

「じゃあ、僕が寝終わった後でよからうにそれに貴様は誰じゃ？」

『一刻を争うから君を起こしたんだよ、ていうか今誰か聞くのかい』

？」

むぐぐ、こつも綺麗にかえされたのは初めてじゃが何故かこの者には、名を聞いてはいけない気がする……『まあ、僕に名を聞いてはいけないというのは感心するよ。じゃあ話に移ろつか？』

「やはりのう、じゃが何者かぐらいは話してくれても……まあ、よい早く話をしてくれないか？」

むむむ、全てを見透かされている様な気がして気持ち悪いが、一刻を争う話か……聞いてみるのが良いかのう。

『さて、じゃあ葉月ちゃんも落ち着いたみたいだし手早く話すよ。まず君は……、死んだ』

この者今、何と言った？僕が死んだ？

訳が分からぬ、そしてこやつ僕の事を、ちゃん付けしおった！

僕はれっきとした男なのに！

「そんな事より僕が死んだとはどういう事じゃ！僕は確かに生きているじゃろつか！」

僕は確かに存在していて言葉を目の前の者と交している、それが死んだ？冗談ではないわ！

『ああ、そつだ君は、確かに存在、していて僕と話しているけどそれは、此処、だけであつて君の世界では死んでいる。それと僕は君に死んだとは言つても、完全、にとは言っていない。』

僕は確かに存在しているが此処だけであり、僕の世界では死んでい

る？

だが完全にはない？

どういう事じゃ……？『あはは、理解しないでいいよ。どうせ理解しても僕が、消す、から……』

この者の言葉一つ一つが恐ろしくて聞いていられぬ！
しかも声を出すこともできぬ……。

『そりやそうだよ、反論されたら僕からしたら堪ったもんじゃない。もう、いいかな？必要な話を話して君を送る事にする。』

何故この者は話す度に言葉の重みが強くなるのじゃ。
そして儂を何処に送る気じゃ！

『うるさいなあ、君は心の中でもお喋りなのかい？そろそろ心でも喋れないようにするよ……』

……分かった、黙って聞く事にする。

『いい子だねえ、もう時間もないし話だけだね。君を別の世界へと飛ばすよ、これは僕からの贈り物的な物だよ。理由は言及しないですよ』

言及は無しということは聞いたら問答無用で消すと取っても構わんのか……

『そうだね、だってそういうの煩くて仕方ないもん。特に強欲な人間とかはね……じゃあほら君も納得したみたいだし、次の話に移るよ』

僕は納得しておらんのだが、反論したら消されるからのう。

して次の話とは何じゃ？『次の話というものはね……その君が行く世界は危険だからね。少しばかりの特典を付けさせて貰うよ、けど付けるのは3つまでで強すぎても駄目だからね。じっくりと考えて』

特典ということは本当に危ない世界なんじゃな……

決めたのじゃ！

『へえ……早いねえ、じゃあ言ってみてよ』

うむ……。

まず一つ、前の体よりも強い個体そして身体能力。

二つ目、父上が使う全ての剣技、居合いの技。

三つ目は、努力することにより強くなる無貯蔵の強さ。
この三つなんじゃがどうじゃ？

『……少しだけ強欲だけどまあいいかな。それだけないと生きれないでしょ？しかも二つ目は君のお父さんの技……強くなるよ直ぐにね。』

さすがに父上の技は引き継ぎたいからのう、じゃが全て許可してくれた事に驚きな の じゃ が。

『能力はあつちの世界で君が産まれたら付与しておくよ。じゃあも

「送るよ。」

え？ちよっ！待つのじゃ！まだ言いたいこと……

『じゃあね、彼処ではお幸せに。』

あの者の言葉と共に僕の視界は紅く染まった。

プロローグ（後書き）

どうでしたか？

感想等まっています

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0801z/>

東方紅狼録

2011年12月2日23時45分発行